

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530220

研究課題名(和文) 流通チャネルとブランド戦略が多国籍企業の途上国消費市場参入形態の選択に及ぼす影響

研究課題名(英文) The effect on multinational company's entry mode into developing economies of distribution channels and branding strategy

## 研究代表者

市田 敏啓 (ICHIDA TOSHIHIRO)

早稲田大学・商学大学院・准教授

研究者番号：80398932

研究成果の概要(和文)：本研究は多国籍企業がホスト国の消費者市場に参入を考える場合にいかなる参入形態選択すべきかを理論的に分析することを主眼としている。その際に主に2つの観点からの分析を行った。一つ目はブランドの差別化の度合いに応じて参入形態が変わるという考え方である。また、二つ目は流通チャネルコントロールの問題にマルチタスクのプリンシパル・エージェントモデルなどを応用することでメーカーと小売りの指向の違いが参入形態を変えるという考え方である。

研究成果の概要(英文)：This research project analyzed the incentive of the multinational firms to enter into developing countries consumers market. Especially, we are interested in how firms decide entry modes: whether it enters by M&A or Greenfield, in relation to the distribution channels and marketing strategies. We find that the degree of differentiation of the products matters for the firm's decision of entry modes. We also used the multi-task principal agent model and find that the diverse interests between retails and manufacturers matter for the decisions of entry modes.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：応用経済学

キーワード：多国籍企業、流通チャネル、ブランド戦略、市場参入形態、国際貿易

## 1. 研究開始当初の背景

多国籍企業とは複数の国家にまたがって事業経営(製品企画・開発、購買・生産から流通・マーケティング・販売に至るまでの価値連鎖/バリュー・チェーンの一部)を行う企業のことであるが、(多国籍企業にとっての)本国から投資受け入れ先であるホスト国に

進出を行うに当たっては、様々な参入形態(エントリー・モード)が考えられる。多国籍企業はホスト国にゼロから子会社を設立する(グリーンフィールド投資)か、ホスト国の現地既存企業を買収することで現地のオペレーションを入手する(クロスボーダーM&A)か、それともホスト国の現地企業に

オペレーションを業務委託する（アウトソーシングとか外注とかアームズ・レンダス取引などと呼ばれる）か、などの選択肢が考えられる。いかなるエントリーモードを選ぶのかという研究課題は、国際貿易・直接投資の分野では 2000 年頃から様々な文献が登場し、盛んに議論されている。特筆すべきは以下の 2つのアプローチである。

一つ目は Grossman-Hart-Moore や Williamson らの組織の経済学や契約理論（特に取引費用アプローチと財産権アプローチ）をもとにした Grossman and Helpman (2002, 2005)や Antras (2003)らのアプローチである。これらのモデルでは契約の不完全性と関係特殊的な投資とその事後的なホールドアップ問題を軸にした理由によって、多国籍企業がホスト国進出する際にアウトソーシングするか自らの直接投資で進出するかの決定をどのように行うのかを明らかにした。

二つ目は Melitz (2003)によって提唱されたメリッツモデルと呼ぶアプローチである。こちらは、Helpman and Krugman (1985)らの Dixit-Stiglitz(1977)型の独占的競争モデルを Hoppenhyn (1992)と組み合わせることで生産性が多様(heterogeneous)であるような無限個数の企業が存在するケースを分析している。Melitz (2003)では生産性の低い企業群は多国籍企業になれずに自国の市場のみに製品を供給し、生産性が高くなると国際的活動（輸出など）を行う。Antras and Helpman (2005)はメリッツモデルを拡張して生産性が高い企業は直接投資を行い、次に高い企業は輸出のみの国際活動で、国内生産しかできない企業があり、最後に生産性が低すぎて退出するケースを分析した。

これらの二つのアプローチを用いた多くの文献の中での垂直関係とは、本社機能と生産機能という区分けを行っており、安価な生産拠点を求めた直接投資の説明を行っている。これは 1990 年代の多国籍企業のアジアなど途上国への投資活動の説明としては理にかなっている。その時代における企業内貿易の増加は、現地生産子会社の設立増加を伴って起きているからである。

しかしながら、近年、特に 2000 年以降になってからは、中国やインドの一人あたりの国内総生産が拡大を続け、生産拠点としてよりも消費者市場としてのこれらの市場の重要性が高まっている。実際に途上国に先進国の多国籍企業が M&A を行って参入する場合には、生産拠点よりも消費者市場を狙ったケースが増えてきた。特に、消費者

市場における流通チャネルの確保を狙った現地企業買収のケースがビジネス関連マスコミを賑わせることが多くなってきた。

そこで、多国籍企業が途上国消費マーケットに参入する際の流通チャネルを確保するためにいかなる参入形態の選択を行うかを分析することは時代の流れに乗っていると言えるだろう。

## 2. 研究の目的

本研究は途上国の消費者市場に参入を考える多国籍企業がいかなる参入形態をとるのかを理論的に分析することを主眼としている。これまでの主な研究が生産拠点を移管する際の参入問題を考えていたのに対して、本研究では主として消費者市場に販売する目的で参入するケースを考える。消費者マーケットにおける販売では、ホスト国内の流通チャネルの確保がカギを握っている。特に、流通チャネルをどのような形態で利用するか（水平統合的に活用するのか、それとも排他的取引契約を結ぶのか、また企業合併後に現地ブランドを併存して売するのかそれとも現地ブランドを統廃合するのかなど）は、ブランドの差別化の度合いに大きく依存すると考えられる。本研究が既存の研究と比べて独創的である点として、製品差別化された市場におけるブランド戦略を寡占モデルを用いて分析すること、マルチタスクのプリンシパル・エージェントモデルなどを応用することで卸売・小売などの流通チャネルを明示的にモデル化することが、あげられる。

## 3. 研究の方法

本研究は理論的な分析を中心としているために、(1) 既存文献の調査、(2) 理論モデルの構築、(3) 論文の執筆、(4) 研究会や学会での研究発表、(5) 研究会などのフィードバックを踏まえた論文の修正・加筆、

(6) 国際的な専門学術雑誌への投稿プロセス、(7) より一般的読者のための啓蒙的著作・記事などによる研究結果の発表、の 7 段階のプロセスを経て研究が実行される。

## 4. 研究成果

本研究は多国籍企業がホスト国の消費者市場に参入を考える場合にいかなる参入形態選択すべきかを理論的に分析することを主眼としている。その際に主に 3つの観点からの分析を考えている。一つ目はブランドの差別化の度合いに応じて参入形態が変わるのかという考え方である。また、二つ目は流通チャネルコントロールの問題にマルチタス

クのプリンシパル・エージェントモデルなどを応用することでメーカーと小売りの指向の違いが参入形態を変えるという考え方である。三つ目はクロスボーダーのM&Aで相手国市場に参入する際のブランド戦略を買収先企業のブランドと統合するのか、それとも、ブランドを別々にキープするのかをいかにして決めるのかという観点である。一つ目のブランド差別化問題については香港城市大学の Chia-Hui Lu 氏を海外共同研究者として寡占モデルと垂直統合のモデルを組み合わせて分析を行っている。この論文は2007年にアテネの欧州貿易研究学会やキプロス大学にて発表を行った。現在改訂作業中である。二つ目のマルチタスクのプリンシパル・エージェントモデルによる流通チャンネルの分析では、Milgrom and Robert(1991), Gibbons(2005)やGrossman and Helpman(2004)などの関連文献をもとに市田単独で理論モデル化を行い、2008年にシドニーのアジア太平洋貿易学会やワルシャワの欧州貿易研究学会にて研究発表を行った。この論文もジャーナル投稿に向けての準備中である。三つ目のクロスボーダーのM&Aのブランド戦略のモデルは、寡占モデルを用いて、ブランドの統合と分割戦略を分析している。2009年ローマでの欧州貿易研究学会、ペンシルバニア州立大学での中西部国際経済学会と、2010年台湾国立中央大学にて発表を行い、現在それらで得られたコメントをもとに改訂中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

市田敏啓 「貿易自由化後のパレート改善と負け組に対する補償制度」早稲田商学 第418-419号 2009年3月 pp.115-151

市田敏啓 「多次元スキルおよび多様エージェントに関する経済理論モデル」早稲田商学 第415号 2008年3月 pp.153-233

[学会発表] (計11件)

Toshihiro Ichida and Toshiyuki Matsuura "Exporting Firms and Employment of Temporary Workers: Human Capital and Firing Costs" Mimeographed Sep. 2010 Waseda University and Keio University. Presented at the following conferences: Sep. 18, 2011 Midwest Economic Meetings, International Trade, Fall 2011 at

University of Wisconsin, Madison (USA)  
Sep. 11, 2011 ETSG (European Trade Study Group) at University of Lausanne (Switzerland)

Sep. 6, 2011 International Workshop on "Economics of Global Interactions: New Perspectives on Trade, Factor Mobility and Development" at University of Bari (Italy)

#### Toshihiro Ichida

"A Model of Multi-dimensional Human Capital Investments: Specific vs. General Investments under Uncertainty"

Mimeographed May 2011 Waseda University. Presented at the following conferences:

Feb. 4, 2011 RIETI International Workshop on "International Trade, Firm and Labor Market" at The Research Institute of Economy, Trade and Industry (Japan)

June 2008 15th World Congress of the International Economic Association (Istanbul, Turkey)

Toshihiro Ichida "Cross-Border Mergers and Branding Strategies of the Multinational Firms" Mimeographed July. 2009 Waseda University.

Presented at the following conferences:  
Oct. 12, 2010 Seminar at Graduate Institute of Industrial Economics, National Central University, Taiwan

Oct. 30-Nov.1 2009 Midwest Economic Meetings, International Trade, Fall 2009 at Pennsylvania State University (USA)

Sep. 10-12 2009 ETSG (European Trade Study Group) at University of Rome (Italy)

June 29-30 2009 APTS (Asia Pacific Trade Seminar) at University of Hong Kong (Hong Kong)

#### Toshihiro Ichida

"A Multitask Model of Multinational Maker's Control of Foreign Distribution Channels" Mimeographed July. 2008 Waseda University.

Presented at the following conferences:  
July 14-15 2008 Asia Pacific Trade Seminar at University of Sydney (Australia)

Sep. 2008 ETSG (European Trade Study Group) at University of Warsaw (Poland)

〔図書〕(計1件)

市田敏啓「多次元スキルエージェントの職業  
選択及び人的資本投資と国際貿易」三菱経済  
研究所 2008年3月10日発行 243ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.f.waseda.jp/ichida/index-e.htm>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

市田 敏啓 (ICHIDA TOSHIHIRO)  
早稲田大学・商学学院・准教授  
研究者番号: 80398932